

新酒を味わうイベント開催

佐賀県鹿島市は現在、市内の6酒蔵を活用し、全国的にも珍しい地域一体となった酒蔵観光を展開している。その一環としてこのほど、市内の酒蔵を巡って各蔵自慢の新酒を味わえる「鹿島酒蔵ツーリズム」を開催。市議会公明党の杉原元博議員も現地を訪れ、酒蔵の関係者から話を聞いた。



「鹿島酒蔵ツーリズム」を訪れ、関係者から話を聞く杉原市議(手前右)

人が訪れた。去年佐賀市の中(46)は、「いろを一度に味わう鹿島の酒がこいとは知らなから酔い気分で語る酒蔵の関係者日本酒の魅力を知ってもらうため地域で協力していく」と語り「鹿島酒蔵」は、2011年の酒蔵が造った吟醸が、世界ワイン審査会シヨナル・ワインシ(IWC)酒部門の最優秀ピオン・サケ」とをきっかけに

各蔵巡って試飲、過去最多の来場者

佐賀・鹿島市

イベント当日、歩行者天国となった肥前浜宿「酒蔵通り」では、酒を立ち飲みできる「角打ち」や特産品売り場が立ち並び、多くの人々にぎわった。来場者は各蔵を回りながら、試飲コーナーでさまざまな酒の

味を楽しみ、気に入った地酒を買い求めた。ほかにも、おつまみの試食や蔵見学、郷土芸能の披露などが行われ、会場は、酒を片手に鹿島の歴史や文化を堪能する人々に溢れた。7回目となる今回は、佐賀県嬉野市にある3蔵と合同で蔵開きが行われ、過去最多となる約8万8000

として、市内の協会などと協力生かした街ついで、酒をテーマに取り組む自治会介された。

鹿島市の6「峰松酒造場」内農家と契約酒蔵の横にオーから加工、販売ける企業運営

も

、酒蔵